



「よそ者」だから見える景色がある 地方創生に外部人材の力を活かす

飯野 亮さん 熊本県上天草市役所 企画政策課地方創生係
Ryo Iino

東京から上天草市に移住し行政職員として地方創生に奮闘する飯野さん。
その根底にはJICA海外協力隊（以下、JOCV）で経験した
「外部人材」としての視点と「面白いこと」を追求する好奇心がありました。

都会から地方へ、 上天草での挑戦

上天草市役所職員として七年目を迎える飯野さん。結婚を機に奥様の故郷である当地へ移住。当初は発音の違う方言や文化の違いに戸惑うこともあったという。しかし七年という月日を経て、「もう東京には十年以上住んでいないので、都会の事情もわからない」と飯野さんは笑う。そのアイデンティティは今、上天草に深く根ざしている。

現在、担当しているのは「地方創生」。上天草市の人口は年間約600人ペースで減少しており、「このままでは大変なことになってしまう」と危機感を抱く飯野さん。しかし、「自然資源、観光資源

に恵まれ、すごく魅力があるところ」と、地域の可能性を信じている。また職場においても、「まずはやってみたら?」と、臨機応変でボトムアップ型の環境が、飯野さんの多様な挑戦を後押ししてくれている。

代表的な取り組みの一つが、上天草市の地域資源である「釣り」を活かした観光振興策。多くの釣り人で賑わう一方、



地元への経済効果が薄いという課題に着目し、飯野さんが立ち上げたのがウェブサービス『天草つろう旅』だ。本格的な釣りではなく、レジャー・エンターテインメント性を追求し、釣りの後も長く滞在してもらえる仕組みを模索した。その結果、利用者のおよそ半分が関東からの観光客という予想を超える反響を呼んだ。その成果に、東京出身の飯野さんの表情もほころぶ。

「外部人材」の経験が育んだ、 新たな地域おこしの視点

実は、釣りは飯野さん自身の趣味でもある。自分が面白いと思えるからこそ仕事にも熱意が注がれるという飯野さん



上天草市で新たに立ち上がった「天草つろう旅」



釣りやゴミ拾いを競う日本初の大会「上天草パールライン釣り大会」



大学生の長期実践型インターンシップ「上天草ベンチャー留学」

が、今「すごく面白い」と感じているのが、地域おこし協力隊に関わる業務だ。そこには、飯野さん自身の「外部人材」としての経験が強く影響している。

環境教育の職種でスリランカに派遣された飯野さん。行政の廃棄物部門に配属され、ごみ分別収集の仕組み導入やコンポストの普及に尽力した。活動当初は、時間厳守の意識の希薄さや日本との文化・慣習の違いに戸惑うこともあったという。しかし、会議の前に一本電話を入れるなど、ちょっとした工夫で相手の反応が変わることに気づくようになった。飯野さんは「今思うと思い込みや固定観念に縛られていた」と当時を振り返る。異文化に戸惑いながらも信念を曲げず、相手の歩調にうまく合わせる――この「外部人材」としての学びが、飯野さんを大きく成長させたのだ。

だからこそ現在、地域外からやってくる地域おこし協力隊のサポートには、より一層力がこもる。「行政の立場の僕が少し調整すれば、みんなが気持ちよく活動できることがたくさんあるだろうと思う」と、飯野さんは自分自身を「外部人材を経験したことのある”パーツ”

のような役目」に例え、行政と地域おこし協力隊の間に立って面白いことを起こしていきたいと、隊員を支援する制度や体制づくりに情熱を注ぐ。

地域に「変革」をもたらす、未来へのビジョン

飯野さんが描く今後のビジョンは、地域おこし協力隊やインターンシップなどの外部人材の活用を通じて、地域に”変革”をもたらすことだという。「たとえ期限付きの人材であっても、様々な立場の人が連携して活躍することで、思っていた以上のことが期待できる」と、その重要性を強調する。

これに向けて、JICAが提唱する『キャパシティ・ディベロップメント』の考え方が大いに参考になっていると飯野さんは話す。「異文化の中で自ら成長し、その経験を日本社会に還元するといったJOCVの制度や仕組みそのものが、参考にすべき知見だと思っている」と、過疎地域の課題解決には、外部人材をうまく活用し、目標達成に向かって共に成長していくプロセスが不可欠だと語

飯野 亮さん プロフィール

大学卒業後に民間企業で廃棄物関連の仕事に携わった後、協力隊員としてスリランカへ。帰国後、福岡県北九州市のまちづくりNPOなどを経て、現在は熊本県上天草市役所で地方創生などを担当する。

る。

最後に、スリランカでのエピソードを話してくれた飯野さん。「高倉さんというコンポスト技術で著名な先生を招いてセミナーを開催したことがあったんです。その中で、ある職員に発表の機会を作ったのですが、有名な先生の前なのに意気揚々とプレゼンする姿に驚き、感激してしまいました」。様々な経験を経て、「立場を超えて、いろんな人たちを巻き込みながら活動していくことが好きだ」という自己認識にたどり着いた飯野さん。これからも「面白い」を追求しながら、地域に新しい風を吹き込んでいくことだろう。

飯野さんへのエール！

熊本県上天草市長
堀江 隆臣さん



海外経験などで培った柔軟な視点が上天草の地方創生に！

飯野君の上天草への深い愛情と、都市部や海外での生活や経験から培われた柔軟な視点は、この地に新たな可能性と変革の風をもたらしています。日々の気づきを市の施策へと昇華させ、市民や学生などを巻き込みながら実践するその姿勢に、心から敬意を表します。これからも共に、持続可能で魅力あふれるまちづくりを進めていきましょう。